

民生委員児童委員の活動実績

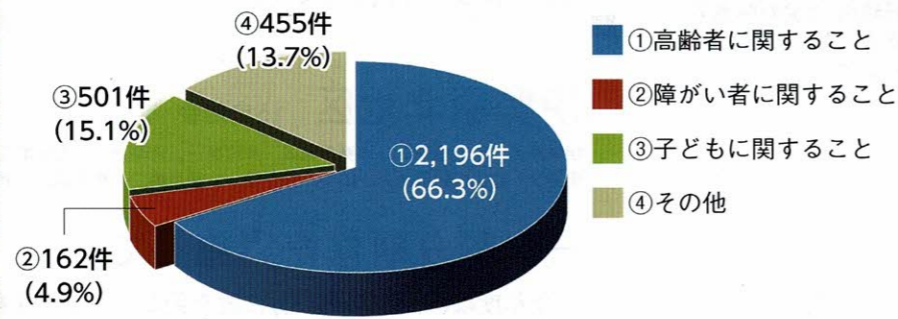
民生委員児童委員は、高齢者、障がい者、子育て、生活困窮など、福祉的な支援が必要なときの相談や地域での見守りなどの活動をしています。

また、地域での高齢者や子育てに関するミニ・サロン、福祉施設などでのボランティア、交通安全パトロール活動などさまざまな活動の実施や協力なども行っています。

令和4年度活動実績

令和4年度の活動実績は相談・支援活動が合計3,314件あり、分野別では、高齢者に関することが2,196件と一番多く、その他には障がい者に関することが162件、子どもに関することが501件、その他が455件になりました。

また、年間活動日数は総数で20,501日、一人当たり約147日になりました。例年一人当たりの活動は150~160日程度だったため、コロナ禍以前まで活動日数が回復しています。



専門部会の活動について

【高齢者福祉専門部会】～高齢者福祉専門部会の研修を終えて～

「高齢者福祉の制度と状況」の研修では伊勢原市内高齢者の人口推移も理解でき、お年寄りも増えていることから民生委員の必要性や民生委員の役割でもある「きづく・つなぐ・みまもる」が更に大切だと実感しました。これからも地域の方々のご縁を大切にお年寄りが笑顔になれる民生委員を目指してまいります。

【児童福祉専門部会】～児童福祉専門部会の研修について～

市内の小中学校で、問題を抱えた児童生徒だけでなく、学校・家庭、友人関係、地域、行政等と連携して支援しているスクールソーシャルワーカー（SSW）の活動や「児童虐待」について学びました。

【障がい者福祉専門部会】～障がいについて考える～

当部会の研修会では、ある企業の方に話をしていただき、その中で障がい者雇用に関する本の紹介がありました。その本の中の社長は、障がい者の方達は企業で働くより施設で過ごした方が幸せではないかと思われ、その疑問を知り合いの職種に伺ったそうです。職種は「人間の究極の幸せとは次の4つです。人に愛されること。人に褒められること。人の役に立つこと。人から必要とされること。彼らが企業で働きたいと願うのは周りの役に立ち必要とされることに幸せを感じる人間の証です。」と話されたそうです。様々な人の思いが伝わり、温かい気持ちとなる研修会でした。

広報委員会

編集後記

委員長	菅 重男 (大山高部屋)
【地区担当】	二宮千佳子 (伊勢原北) 松田 敦子 (伊勢原南)
	高橋百合子 (大山高部屋) 小華和三舟 (比々多)
	片岡 勇司 (成瀬) 北原真知子 (大田)
【高齢者福祉専門部会】	河口 美子 (成瀬)
【障がい者福祉専門部会】	古閑 洋子 (大田)
【児童福祉専門部会】	山口 健明 (比々多)
【主任児童委員】	福岡 敦子 (伊勢原北)

記録的な猛暑と、豪雨で大きな被害が各地で起きた今年でしたが、コロナ禍収束の兆しを感じられてきたことから、市内の各民児協では安心感を持って対面活動が復活しました。活動の内容を改選された新しい広報委員が「たより」でお届けします。

いせはら 民生委員児童委員だより

発行 伊勢原市民生委員児童委員協議会

〒259-1188 伊勢原市田中348番地

編集 広報委員会

☎0463(94)4718

ホームページ：『伊勢原市 民生委員』で検索 <http://www.city.isehara.kanagawa.jp/docs/2018053100033/>



あなたも 民生委員児童委員を やってみませんか



神奈川県民生委員児童委員協議会 キャラクター「みんびよん」

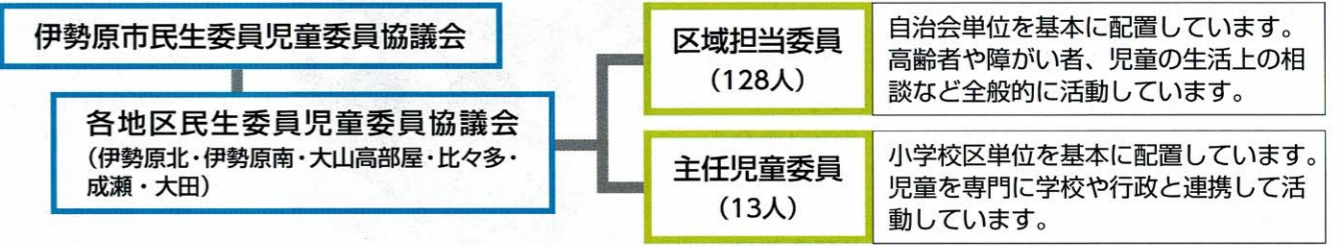
- 人と出会い、話すことが好き！
- 秘密を守ることができる
- 困っている人を放っておけない！
- 暮らしやすいまちにしたい
- 多様な個性や生き方を大切にできる！
- etc...
- ◎誰もが安心して生活できる地域づくりのために日々活動しています。

◎民生委員児童委員は地域の身近な相談相手として「きづく・つなぐ・みまもり」ます。

- 生活上の心配ごとや困りごと、子育てや介護の不安などの相談に応じ、必要な支援が受けられるよう行政や専門機関へのつなぎ役を担います。
- 定期的な訪問などを通じて、高齢者、障がい者、子育て家庭等、住民の生活を見守ります。
- 地域での孤立を防ぐために、高齢者や子育て家庭を対象にしたサロンや交流の場への参加を促す活動をしています。

伊勢原市民生委員児童委員協議会の組織について

令和4年12月1日付けで民生委員児童委員の一斉改選が行われ、新しい執行体制となりました。



民生委員児童委員の連絡先

地区の担当委員をお知りになりたいときは、事務局に連絡してください。
☎ 連絡先 伊勢原市役所 1階 福祉総務課 ☎94-4718(直通)

大山高部屋地区 25自治会

大山上、大山中、大山下、子易上、子易下、川上、八引、峰岸上、峰岸下、ハイム上粕屋、峰岸団地、辻尾崎秋山、台久保、山王原、石倉、子易、一之郷中丸、宮下、宝地九沢長竹、原、日向の里、新田、洗水、坊中高橋、藤野

－歴史ある「保育クラブ」－

昭和11年、高部屋村が国から「愛育村」の指定を受け母子支援事業が始まりました。酪農が盛んで携わる人々の苦労も大きく、子供たちの成長に大きな影響があった為、母子支援事業の対象になったと言われてい

ます。全母親に講座や専門的な指導が行われ、生活改善が図られました。先人の方々の愛育精神を継承したいという思いが、社会の変化の中で組織を変えながら、昭和42年に現在のクラブ設立に繋がりました。今後も世代を超えた地域の交流、情報交換の場となればと思います。



大山高部屋保育クラブ

比々多地区 11自治会

神戸、串橋、笠窪、坪ノ内、善波、栗原、三ノ宮、白根、もえぎ台、大住台、ヘルフラワーズ大住台

－「人と人をつなぐ」安心できる地域づくり－

自治会等への参加については任意ですが、その大切さについて日常的に語られることは多くありません。ご近所と知り合いになることや地域の活動に参加してみても初めて知るネットワークの大切さ、民生委員を務めてみて改めて実感しています。特に災害の多発する昨今、被災は明日の我が身、家族かもしれません。地域の皆さんが知り合いでいい関係であるということは、防災の一つでもあると思います。比々多地区民児協では各委員からの疑問や提言を話し合い、制度の手続きについても確認などを行っています。情報交換を活発に、知恵を出し合って「人と人をつなぐ」安心できる地域づくりに貢献したいと思い活動しています。



地区定例会 情報交換

伊勢原南地区 20自治会

大原町、千津南、下大竹、谷戸大竹、池端、中尾、大匂、馬渡、八幡台一区、八幡台二区、八幡台三区、原之宿、天王原、上平間台、沼目団地、星和マンション、ネオハイツ、平間台、木津根橋、サンクレイドル

－みんなで「学ぶ」、チームミナミンピョン－

南地区では、「チームミナミンピョン いせはら」～学ぼう・知ろう(理解)・役立てよう～を、3年間のテーマに設定し、1年目の今年、みんなで「学ぶ」研修活動に重点を置いています。

〈研修内容の1部を紹介〉

①消防署の方による研修。民生委員としての救急車への対応、及び心肺蘇生法について「学ぶ」。

②有明にある「東京臨海広域防災センター(そなエリア東京)」にて体験学習。

最新の防災について「学ぶ」。

③新メンバーということで、南地区の各部会毎に、市内施設見学。市内の施設について「学ぶ」。南地区は新会長を中心に日々和やかに活動しています。



そなエリア東京体験学習

伊勢原市の民生委員児童委員活動

伊勢原市の民生委員児童委員は141人です。このうち自治会の範囲を基本に地区で活動する委員が128人、児童を専門とする主任児童委員が13人となっています。主任児童委員の活動は小学校区単位で活動しています。

民生委員児童委員は、6地区に分かれ、個人活動だけでなく、地区全体での活動も行っています。ここでは各地区の様々な活動をご紹介します。

地区名	委員総数	★
伊勢原北	25人	2人
伊勢原南	32人	2人
大山高部屋	21人	2人
比々多	16人	2人
成瀬	34人	3人
大田	13人	2人
合計	141人	13人

★は委員総数内における主任児童委員の人数。また記事作成時点(令和5年9月1日時点)と発行時点で人数が変更となっている場合があります。



主任児童委員

－地域の子どもの笑顔を願って－

主任児童委員は、児童福祉を専門に担当する委員です。18歳までの心配ごとや子育ての悩みを学校や必要な関係機関と連携し、支援を行っています。月に一度の連絡会では様々な研修も行っていて、今年度は乳幼児向けの救命講習を受けました。いざというとき役に立てるよう、皆真剣に練習に取り組みました。9月には、県立伊勢原支援学校の視察研修を行い、支援の必要な子ども達への関わり方などを教えていただきました。障がいがあっても無くても、子どもの成長は関わる大人次第。私たち大人のプラスの視点が大切ということ学びました。これからも子ども達の成長を支えていけるよう、活動してまいります。



乳幼児向け救命講習

成瀬地区 20自治会

下糟屋、東富岡、栗窪、前高森、北高森、小金塚、石田、見附島、下落合、高森台、東高森団地、あかね台、南落合、白金山団地、みどり、リパティタウン伊勢原、すみだ、リパティタウン伊勢原第2、アイリスの丘、東成瀬

－ナルミン プラン－

私たちが「住民の身近な相談相手」として、蓄積してきた相談のスキルは多岐に渡ります。そういった個別の課題を、地区全体の課題として共有していくことを目的に始まった成瀬地区民児協の「ナルミン プラン」が今年で5年目を迎えます。その間、神奈川県版活動強化方策を基に学習してきた成果もあり、気づきのポイントが広がってきたと感じられます。また、初めて対応する新任委員の悩みや心配はもちろんのことですが、委員の経験が重なるごとに悩みが増すこともあるようです。「ナルミン プラン」を通して、相談内容を可視化し整理する仕組みを身に付けるとともに、関係機関や専門職に繋ぎ、見守り続けることも改めて分かったような気がします。



ナルミン プラン 研修風景

伊勢原北地区 15自治会

伊勢原上、伊勢原第三、伊勢原第四、片町第一、片町第二、七区第二、駅前第一、千津北、金山、池端坂戸、田中、板戸第一、板戸第二、板戸第三、アメニティ板戸

－日帰り研修を実施して－

今年度は、視覚障がい者に総合的なサービスを提供する施設、神奈川県ライトセンター訪問研修に行きました。案内された女性は、全盲に近い職員の方でしたが、危なげなく館内を移動され、台所では包丁も使い、天ぷらも揚げると聞き大変驚きました。「障がいは不幸でなく不便だけ」と話され、周りの理解や協力を得ながら様々なことに挑戦されるポジティブな姿に皆感銘を受けました。



神奈川県ライトセンター

研修後には、新人委員から、「このような機会を作っていただき、たくさん学ぶことがあった!」と感想がありました。私たちは地域の様々な方と接する時、気づき、理解し、つなぎ、日々の生活の中で不便を感じている人が、少しでも不便でなくなるよう活動していきたいです。

私たちはこうした研修を通して、これからも地域の皆さまや障がいを持つ方々のお力になれるよう、広い視野を持って活動してまいります。

大田地区 11自治会

上谷、下谷、沖小稲葉、西屋、新屋、下小稲葉、上平間、下平間、東沼目、西沼目、つきみ野

－地域の安全・安心は地域で守る－

2017年から始まった「東沼目安心見守り隊」は、自治会の本部役員、地区の民生委員児童委員、東悠会(老人会)などの有志により、毎月1回地域の見守り活動を行っています。夕方から開始し、災害時要援護者・高齢者一人暮らしの方を重点的に巡回します。部屋の電気がついているか、新聞・郵便物等が溜まっていないか等、ポイントを押さえて行っています。

また、民生委員が地域の「つなぎ役」として、活動を通じて得る情報を関連機関(行政、社会福祉協議会、東部地域包括支援センター)と共有し、少しでも暮らしやすくなっていけば、「やって良かった」と思うことが出来ると思います。



東沼目安心見守り隊